

大学関係者各位

大学祭開催期間に関する意見書

北大祭全学実行委員会

1. はじめに

平成27年度より、本学のより一層の国際化の推進に向け、4学期制が導入されることとなります。このことにより生じる授業日数不足を解消する方策の一つとして、大学祭の開催期間短縮が挙げられました。北大祭全学実行委員会（以下、本実行委員会）は、これまで2度に渡って大学祭開催期間に関する意見交換会を行ってまいりました。その後、本実行委員会では一般学生からの意見募集や大学側からの情報の精査を行いましたので、改めてここに本実行委員会からの意見書を提出いたします。

2. 本実行委員会の意見要旨

大学祭は、自由・自主独立の精神を涵養することを基本理念に据える本学において、その象徴たる行事である。また、本学において行われている教育・学問、更には学生の文化的創造的活動は、社会への評価あるいは社会への還元を以て初めて成り立つものと位置付けられる。そういった中での大学祭の開催期間の短縮は、周辺市民が本学の様々な活動に触れる貴重な機会の喪失につながるだろう。本実行委員会の計測から、開催期間を1日減らすことにより、来場者が数万人単位で減少すると予想される。また、道内有数の規模を誇る本学において、研究・部活・サークルなど、様々な学生の発表の場を減少させることは学内外における大きな損失であり、容易に受け入れることはできない。

学内においても開催期間の短縮が与える影響は大きい。医学部を始めとした医療系の学部・学科において、大学祭は将来人命を預かるうえでの責任感を実感できる貴重な機会と位置付けられている。また、入学して間もない1年生は大学祭を通じてクラス・部活・サークル内の交流を深め、その企画・運営を通じて責任感や社会性を磨いているのも事実である。当然、開催期間の短縮により以上の意義が完全に損なわれるものではないが、大学祭が全体として被る負の影響は計り知れない。

また、実際問題として大学祭の開催期間が短縮されることにより、準備期間が不十分になる各祭が生じる。多くの学部・学科において、実習等で多忙な場合は木曜・金曜と2日間かけて準備し土曜・日曜に開催しているため、1日の短縮は準備期間が半減することを意味する。その結果、展示・発表内容の質が低下すると予想される。

今回の期間短縮案に関しては、大学側からの説明の不十分さが否めない。これまでの意見交換会では大学の国際化一辺倒の説明がなされており、4学期制導入の具体案や、土日祝日開講・授業開始日の早期化等に関する検討状況が不明瞭である。このような状況で大学祭の期間短縮に理解を示すことはできない。

尚、大学から以前提案された「北大祭の秋開催」に関しては、種々の事情により現実的ではないと判断している。

### 3. 学内外における反応

本実行委員会では本件に関して学内外からの意見募集を行い、11月16日時点で約130件の意見をいただいている。以下に、全体的な要旨を記載する。詳細については別紙を参照していただきたい。

#### 【開催期間の削減に反対である】

##### ➤ 大学の国際化・カリキュラム変更について

- ・ 単純に1日授業日数を減らしたとしても、夏休みが早くなるのは1日だけです。1日早く夏休みが始まるだけで、一体どれだけ海外へ短期留学する人が増えるのでしょうか？1日伸ばすだけで何がどう変わるのかということを明確に提示していただきたいと私は思います。
- ・ 北大の国際化を図るということで北大祭の日数を減らすというのは甚だ疑問です。国際化を図りたいならば、留学生が店を出し、母国の料理を作って学生はもちろん地域の人や他国の人と交流する素晴らしい機会である北大祭の期間をむしろ伸ばすぐらいに考えてもいいくらいだと思います。国際化において北大祭の果たす役割は本当に大きいと思います。
- ・ ここまで案が決まっているのになぜそのもっと前の段階で学生にそのことを知らせなかったのか、案を出した段階で学生に知らせることができなかったのかまたこの件も含め4学期制に関してその全貌（どの学年・学部が該当するのか、従来の年間予定とどのように異なるのか等）をきちんと学生に知らせるべきだ。

##### ➤ 「発表の場」「交流の場」の減少について

- ・ 私が所属しているジャズ研究会では、毎年大学祭が、新入生の初めての演奏や部員思い思いの演奏を一般の方に聴いて頂ける大切な場です。一日減ってしまうだけで、演奏できる部員を削らなければならなくなり、大変心苦しいです。
- ・ 榆陵祭に来ている一般の方にもしるちゃんを知っていただく数少ない機会が減ってしまう。
- ・ 事務側にも講義のカリキュラム、スケジュール等色々不都合している部分はあるのですが、それでも北大祭は北大生並びに札幌市民に親しまれている行事でもあり、その期待に応え北大をより盛り上げるために学生が頑張っている行事でもあります。
- ・ 地域のみなさんと関われる機会は非常に有意義であると感じております。このような貴重な機会を日程調整などという学生を煙に巻くような理由で奪ってしまっているのでしょうか。
- ・ 学生のリアルな活動と地域社会とのふれあいの場はそんなことで簡単に減らしていいほど些末なことでしょうか？
- ・ 当団体はこの学園祭出店を発表の機会のひとつの柱としており、運営日が減ることで内容が希薄になってしまうこと、また一般生徒・地域の方々に見ていただく機会も減ってしまうことは納得できることはありません。1年生はクラス出店もあり現在でもサークルに裂ける時間が限られている中、更に期間短縮となると上下間の関わりも必然的に減り、今後のサークル運営によい影響がないのは明らかです。

##### ➤ 北大祭における国際交流について

- ・ 一日大学祭を削って講義を増やすよりも、留学生の出店するお店に向いてその国の伝統料理を食べたり、そこで留学生と交流したりの方が、より有意義な文化交流ができるでしょう。こうした交流は、北大が目指す国際化の像と相違があるのでしょうか。
- ・ 部生の県人会やインターナショナルゾーンなど、北海道にしながら日本国内、国外の食を体験できたり、理系学部の様々な取り組みを一般市民の皆様にとって頂ける機会でもあります。その国際性や出展内容

の多様性は本州の有名大学にも見られない、一般市民への貴重な体験の提供にもなっていると感じました。つまり北大祭は学生のみならず、札幌市民、北海道民にとっても価値あるイベントであると思います。

- ・ 北大に限られた時間だけ世代を超えた街になる。北大祭は開かれた大学として大切な社会貢献の時・空間でもある。120年前の新渡戸稲造先生による「学」を求める市民に手を差し伸べた遠友夜学校の精神を忘れてはならない。(中略) 北大生は、夢ある子供達をはじめ来訪者との貴重で多様なコミュニケーション時間を減らして、北大の扉を閉じてならない。大学祭はホームカミングデイの性格もあるのだから。
- ・ 北大祭には IFF のような、“国際的な北大” を地域の方々、高校生などにアピールできる年に1度の大きなチャンスがあります。普段、留学生と接することの少ない、地域の方々、高校生にとってはとても貴重な機会だと考えます。大学側は、大学の国際化を掲げて北大祭の短縮を提案しているようですが、それが“学生の海外留学促進”には必ずしも結びつかないと考えます…。それならむしろ、“”北大祭や、IFF を利用し、国際化を進めていくにはどうしたらよいか？””を考えるほうが、先決だと思います。(中略) 大学側の意見が、「留学を推し進めていきたい」「海外に出ていく人を増やしたい」であれば、北大祭を通じて留学生との交流を増やしていけばいいのではないかと思います。このような地道な努力が、学生が海外に目を向けるきっかけになります。

➤ 大学祭の意義について

- ・ 大学時代の思い出が学生最後の記憶となり社会人になります。たかが一日と考えてはいけないと思います。学生たちも学祭に向けての準備、練習などは社会に出る前の最後のステップであるとおもいます。輝いている姿を見せるのも大学側の仕事だと思います。小中高生がこの大学に入りたいと思う学祭を期待しています。
- ・ 北大祭は部活やサークルの発表、学部や研究所の特色を打ち出したイベントや展示等にも市民が訪れる重要な「アウトリーチ」の場でもあります。北大祭1日分は、オープンキャンパス1日分を遥かに凌駕するだけの意味、意義、効用があるはずで、それをわざわざ削減するに足る理由があるとは思えません。
- ・ 留学などの海外経験は確かに素晴らしい経験でもありますが、北海道大学の学生が、まさに大学のある札幌の地で大きなチャレンジをすることもまた必要なことではないでしょうか。自らの地域性を失った、地元愛と引き換えにした、言わば足元の欠けたグローバル性が、北海道大学が求めるグローバルな姿なのではないでしょうか？学業にも真摯に打ち込みながらもイベントの規模をそのままにしておくことは、一般的には両立の難しい国際性と地域性、そしてこれからの若い人に求められる経験の多様性という複数の観点から十分に価値がある取り組みだと思います。
- ・ 自分で考え行動し、コミュニケーションを積極的に測り、自分から問題を解決しようと努力する。そういった学生が減少傾向にある中、このような貴重な1日を削減しようという事には非常に疑問を覚えます。

【開催期間の削減に賛成である】

- だらだらと長い日程で実施する必要性が感じられません。

【その他】

- 大学の対応について

- ・ ここに至るまで学生や教員に全く知らせていないことは強い非難に値します。

- ・ ジンパ問題のときも同じだが学生や職員に何の連絡もなしにいきなり変更するという手法は時代錯誤に感じる。開かれた大学やグローバルな大学を目指す北海道大学が取るべき手法はほかにあるはず。
  - ・ 大学祭は学生全員（+来年度入学の現在受験生）がコミットしうる問題であって、大学本局のものでも実行委のものでもないで、今月下旬から来月上旬でなし崩し的に日程変更が確定してしまうならば、その前に学生自由参加の討論会等を開く必要があるのではないか。
  - ・ 大学側が情報をシャットアウトして話を進めようとしていることに不信感しかありません。
  - ・ 学祭短縮だけでなく、スーパーグローバル大学への移行など、様々なことが連鎖してしまう問題なので、その関連の事柄に問題意識を感じるすべての人が連携して取り組むべきだと思います。
- 話し合いの時期について
- ・ やるにしても現在の制度を良しとして入学してきた現在在籍している学生、来年入ってくる入学生ではなくその下の学年以降に対してにするべきだと思います。
  - ・ 再来年度からの3日間開催であれば、私たち出店側もなんとかそれでうまくいこう調整していきたいと思いますが、来年度は正直急すぎます。

#### 4. 大学側への質問事項

- 大学側の北大祭に対する見解について
- ・ 北大祭の開催期間を削減する理由は何か
  - ・ 北大祭の意義についてどう考えているか
  - ・ 北大祭が国際化にどのように貢献していると考えているか
- 来年度のカリキュラム変更について
- ・ 来年度は4学期制をどの程度（理系基礎科目のみ、全学教育のみなど）導入するか
  - ・ 再来年度からどのようにカリキュラムを変更する可能性があるか
  - ・ 各学部では来年度のカリキュラム変更をどの程度検討しているか
- 具体的なカリキュラム変更案について
- ・ 夏季休業期間の開始日をいつに設定することを想定しているか
  - ・ 夏季休業期間の早期化によって何日間の授業日数を捻出しなければならないのか
  - ・ 夏季休業期間を一日早期化することにより具体的に何人程度の留学者数の増加が見込めるのか
  - ・ 土日祝日の授業実施はどの程度検討しているか
  - ・ 授業開始日の早期化はどの程度検討しているか
  - ・ 上記の方策以外に授業日数確保の方策は検討しているか
  - ・ 北大祭の開催日程が正式に決定するのは具体的にはいつか
- 学生への周知について
- ・ 来年度のカリキュラム変更について学生に周知する場（国際化に関するシンポジウムなど）を開催することを検討しているのか
  - ・ 本実行委員会向けに寄せられた意見について、開催期間短縮に反対という意見が多かったが、これについてはどう考えているか